

か が か さ ま え き し ゅ う へ ん

加賀笠間駅周辺地区

(石川県白山市)

- 計 画 期 間 令和4年度～令和8年度
- 面 積 52.3ha
- 交付対象事業費 4,361百万円
- 市人口 112,830人

ポイント

白山市は3つの車両所等を有し、「鉄道のまち」としての地域活性化策の展開を進めており、鉄道を活かした賑わいづくりと、安全安心なまちの実現を図る。

地区概要

北陸新幹線白山総合車両所の隣接地に交流拠点を整備するとともに、加賀笠間駅の自由通路や周辺の歩行空間の整備、安全安心な生活環境の向上のための事業を実施する。

目 標

鉄道を活かした交流拠点の創出、駅の利便性と周辺の快適な歩行空間や移動手段確保による回遊性の向上、安全安心な生活環境の向上を目標とする。

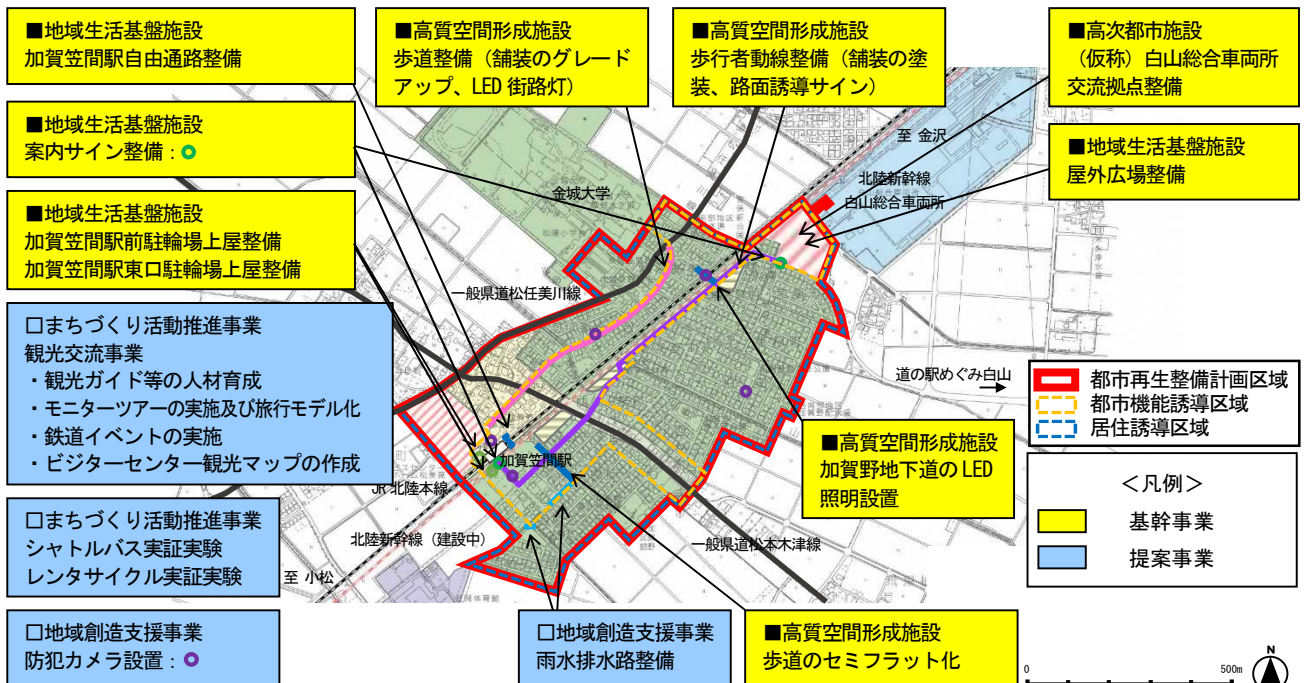
指 標

交流拠点や駅利用者の増加、居住人口の減少緩和を目標として設定した。

白山総合車両所ビジターセンターの見学者	3,464人/年 (H29)	→	50,000人/年 (R8)
加賀笠間駅乗車人員	1,565人/日 (R1)	→	1,600人/日 (R8)
対象区域の人口	3,313人 (R2)	→	3,090人 (R8)

事業内容

- 基幹事業 (4,274百万円) → 高次都市施設 (観光・地域交流センター)、地域生活基盤施設 (屋外広場、自由通路、駐輪場上屋、案内サイン)、高質空間形成施設 (4箇所)
- 提案事業 (87百万円) → まちづくり活動推進事業 (観光交流事業)、地域創造支援事業 (2箇所)、事業活用調査



地区の現況と課題

現況

当地区は、JR 加賀笠間駅の北側に、昭和 49 年から平成 10 年にかけて整備された住宅地であり、近年、人口が減少傾向にあるとともに、JR 北陸本線で住宅地が分断されているなど不慣れた状況であり、地区の利便性向上と生活環境の充実による人口減少の歯止めが課題となっている。

課題

- ① 白山総合車両所を観光及び地域交流拠点として活用するための環境整備が求められている。
- ② 白山市総合車両所来訪者や学生、住民が利用し易いよう、加賀笠間駅や地区内道路のバリアフリー化など歩行空間の整備、移動の利便性向上が求められている。
- ③ 都市機能誘導区域及び居住誘導区域として住みよい環境を維持・向上させるため、安全安心な生活環境の整備が求められている。



白山総合車両所（北陸新幹線）

提案事業の特徴

防犯カメラ設置事業

地区内の路上や地下道に防犯カメラを設置する。

シャトルバス実証実験

交流拠点への交通手段確保と回遊性向上を図るため、シャトルバス運行の実証実験を行う。

レンタサイクル実証実験

交流拠点への交通手段確保と回遊性向上を図るため、加賀笠間駅を拠点としたレンタサイクルの実証実験を行う。

観光交流事業

観光ガイド等の人材育成、モニターツアーの実施及び旅行モデル化、鉄道イベント実施、観光マップ作成を実施する。

計画策定プロセス

上位計画として「第2次白山市総合計画」、「第2次白山市都市計画マスタープラン」並びに「立地適正化計画」を定めており、これら計画の基、賑わい拠点の整備をはじめとした、都市の再構築を目指すこととしている。



加賀笠間駅（東口）



交流拠点外観イメージパース



交流拠点屋上からの眺望イメージ